



令和3年度 穂肥対策号

令和3年7月5日

# 東南おきたま 雪若丸だより

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト置賜地域本部実践班

出穂はやや早まる見込み！今年のおいしい「雪若丸」づくりのポイントは

- 1 葉色を低下させないことが大事！
- 2 遅れず&生育診断に基づく“食味重視”の穂肥！

## 1 生育状況（農業技術普及課調査圃）

- 「雪若丸」の生育は、指標値に比べ草丈、茎数は指標値、葉数はやや多く、葉色はやや濃い状況です。
- 出穂期は「平年並～やや早い」予想です。穂肥は遅れず行い、生育過剰な場合は施肥量を減らす等、“食味重視”の穂肥でおいしい「雪若丸」づくりに努めましょう。

6月30日現在		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
雪若丸	高畠町	41.2	609	10.3	47.5
	指標比	100	103	+1.0	+4.5
	指標	41.0	590	9.3	43.0

## 2 直ちに中干し・作溝を行いましょう！

- 中干しは田面に小ヒビが入る程度を基本とします。
- 生育量が大きい場合や、葉色が濃い場合は →やや強め
- 生育量が小さい場合や、葉色がさめかかっている場合は →弱め
- 作溝を行うことにより、出穂期～登熟期まで効率的な水管理ができます。

## 3 「雪若丸」の生育診断について（9.5葉、6月30日頃）

### 【前提条件】

- 中干しを行い、土壤環境を整え、上根を張らせ、穂肥のできる状態までイネを仕上げる。
- 幼穂形成期まで葉色（SPAD値）を40未満に低下させない。  
「はえぬき」より、生育量が多くても中干しの強度を上げすぎない。  
※「雪若丸」の葉色は「はえぬき」より、全般に濃く推移する。  
偏穂数型でm<sup>2</sup>茎数は「はえぬき」より、多くなる。
- 目標収量 600kg/10a、検査等級1等、玄米粗タンパク含有率 7.5%以下（乾物換算）とする。

予想出穂期 8/3～5 → 穂肥時期の目安（出穂25日前） 7/9～11頃

## 【 生育診断のポイント 】

- 目標とする食味・収量・品質を確保するための生育指標（9.5 葉時）

莖数 750 本/m<sup>2</sup>（坪当たり 70 株植え：35 本/株）以下

葉色 44（SPAD 値）以下

※m<sup>2</sup>粒数を 30,000 粒程度とし、登熟を高めて、食味、品質を向上！

- 穂肥は出穂 25 日前、窒素成分で 1.5kg/10a を基本とする。

生育診断結果により、次のように対応する

生育量	莖数	葉色 (SPAD)	追肥対応 (8月2日出穂の場合)
生育不足	560 本/m <sup>2</sup> 未満	40 未満	早めの穂肥 出穂 30 日～26 日前 (7月4日～6日頃) N成分 1.5kg/10a
適 正	560～750 本/m <sup>2</sup>	40～44	出穂 25 日前 (7月9日～11日頃) N成分 1.5kg/10a
生育過剰	750 本/m <sup>2</sup> 以上	44 以上	出穂 25 日前 (7月9日～11日頃) 葉色の低下を確認し、減肥対応 N成分 1.0～1.2kg/10a

## 4 いもち病・斑点米カメムシ類の対策は万全に！

- 本田で「葉いもち」の発生が例年より早い時期から確認されています。また、葉いもちの感染に好適な条件が続いており、多発が懸念されます。圃場をよく見回り、**早期発見、早期防除**を徹底しましょう。

- 斑点米カメムシ類の発生が「多い！」状況です。早急に草刈りを実施し、生息密度を減らしましょう！

※水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は  
斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。

**水田内の残草処理を徹底**しましょう。

(※除草剤の使用の際は使用基準を遵守)



アヒゲホトリカスミカメ



アカスジカスミカメ

～草刈りは地域ぐるみで実施し、  
地域全体の密度低減を！～

## 農作業事故・熱中症に注意！

- 「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。

- 暑い日が続きます。熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

山形県農薬危害防止運動実施中！～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～